

シュンギク(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	う ど ん こ 病	炭 疽 病	ア	コ	ア	ハ	マ	オ	ヨ	ハ	シ	ネ	ハ
								ブ	ナ	ザ	モ	オ	ト	ス	キ	ク		
								ラ	ジ	ミ	グ	ハ	オ	ト	モ	ロ	キ	ク
								ム	ラ	マ	リ	モ	タ	ウ	ン	イ	リ	ク
								シ	ミ	エ	バ	ヨ	バ	ム	ヨ	チ	ム	ク
											エ	ト	コ	シ	ト	モ	シ	ク
												ウ	ガ	ウ	ト	ジ	ム	ク
															ウ	ヨ	シ	ク
																ト	ヨ	ク
																ウ	ト	ク
アミスター20FL	Q o I	11		1	2		◎											
スクレアFL	Q o I	11		1	3		◎											
ストロビーFL	Q o I	11		14	3		◎											
サンクリスタル乳	天然物由来	-		1	-	◎		◎	◎									◎
カスケード乳	I GR	15		7	2					◎		◎		◎	◎			
トリガード液	I GR	17		7	2					◎	◎							
ディアナSC	ｽﾍﾞﾝｼﾝ	5		1	2					◎		◎		◎				
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	材ｺﾁﾉｲﾄ <sup>o</sup>	4A		1	2			◎										
アルバリン粒 スタークル粒	材ｺﾁﾉｲﾄ <sup>o</sup>	4A		*a *b	1					◎	◎							
ダントツ溶	材ｺﾁﾉｲﾄ <sup>o</sup>	4A		3	3			◎		◎	◎							
ダントツ粒	材ｺﾁﾉｲﾄ <sup>o</sup>	4A		*b	1			◎		◎	◎							
ベストガード粒	材ｺﾁﾉｲﾄ <sup>o</sup>	4A		*a 3	1 1			◎ ◎	◎		◎							
モスピラン顆溶	材ｺﾁﾉｲﾄ <sup>o</sup>	4A	劇	3	2			◎										
アディオソ乳	ﾋﾟﾚｯﾍﾞｲﾄ <sup>o</sup>	3A		21	2			◎										◎
ガードベイトA粒	ﾋﾟﾚｯﾍﾞｲﾄ <sup>o</sup>	3A		*c	2													◎
アフーム乳	ﾏｸﾞﾛﾗｲﾄ <sup>o</sup>	6		7	2					◎	◎	◎				◎		
ウララDF	他	29		1	2			◎										
コテツFL	他	13	劇	14	2										◎			
プレオFL	他	UN		1	2										◎			

\*a:定植時 \*b:播種時 \*c:生育初期

シュンギク

## シュンギク(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	播種前 生育初期～ 生育期	1. 排水をよくする。また過度の灌水は控える。 2. 密植、肥切れをさける。 3. 被害株は抜きとり処分する。 4. 発病株での採種、播種をさける。	春と秋に発生し、特に9～11月に多湿状態が続くと多発する。 分生胞子の発芽適温は15～20℃、多湿条件で発生しやすい。
炭疽病	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ストロビーフロアブル 3000倍	
てんぐ巢病	生育期	1. 発病株は早期に抜きとる。 2. 周囲の雑草を除去する。	ファイトプラズマによる。ヨコバイ類が伝搬する。
モザイク病		1. 発病株は早期に抜きとり土中深く埋める。 2. アブラムシを防除する。	
アブラムシ類	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 オレート液剤* 100倍 モスピラン顆粒水溶剤 8000倍	*野菜類での登録
コナジラミ類	定植時および生育期	・次の薬剤を散布する。 ベストガード粒剤 9kg/10a	定植時は植溝処理土壌混和、生育期は株元処理。
アザミウマ類	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍	
ハモグリバエ類	生育期	・次の薬剤を散布する。 トリガード液剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT* 1000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍	*野菜類での登録
その他の病害虫		菌核病	